

## 顔

5年ほど前に、花粉症のシーズンが過ぎても、若者の間でマスクの着用が流行したことがあった。「だてマスク」である。感染防止やエチケットではない。学校や職場での人間関係にストレスを感じ、表情を隠すことで精神的に安定するからだとか。

ある講演会で、車にひかれた人の横を多くの人が何もせずに通り過ぎる映像を流し、講師が「自分なら必ず助けると思う人は？」と問いかけたところ、聴衆の大半が挙手した。次に講師は、「それでは、アフリカでは疫病で多くの子どもが命を落としているのに、なぜ無関心でいられるのか。」と問いかけた。ある新聞のコラムに掲載されていた話である。この二つのケースで起こる感情の違いは「顔」にあるとのこと。アフリカの子どもたちの「顔」を見れば、助けたいという感情が起こるのでは、と論じていた。

本学園でも先週から、インターネットを通じたホームルームが始まった。今週木曜からは、3年生対象の「情報」を皮切りに教科の「オンライン授業」がスタートする。相手の表情・目線・仕草・声の抑揚等から得られる「情報量」は直接対面による授業にはかなわないが、情報通信技術の進歩によって可能となった「顔」の見える授業である。スマホやパソコンの画面に映し出される相手の「顔」を見ながら、マスクなしで授業を受けてほしい。「顔」には人の心をつなぐ力がある。

頑張れ徳風生！



校長 東則尚